



“Yes デー” という素敵な発想

校長 吉田 伸吾

44 日間の長く、そしてとても暑かった「平成最後の夏休み」が終わり、1 年間で最も長い学期である 2 学期が始まりました。「もうちょっと休みたいな」という夏休みの終わりを惜しむ声もあれば、「友達に会えるのが楽しみ」という 2 学期の始まりを待ち望んでいた声もあります。それが学校です。596 人いれば 596 人の気持ち、考えがあります。そうした子供たち一人一人の思いを受け止めて、私たち教職員はまた子供たちと一緒に走り出します。

さて、去る 7 月 30 日(月)に北本市役所の 3 階議場で「北本スマイル議会」が行われました。「北本スマイル議会」は、市内各小・中学校の代表児童生徒の 24 名が集まり、現王園市長を初めとする北本市執行部の皆さんに対して「一般質問」が行われたり、12 校の総意としての「北本スマイル議会宣言」の提案及び採択が行われたりしました。この会の全体としては、さすが各校の代表だけに多少の緊張感があったもののどの児童生徒も立派な態度で臨んでいたことが印象的でした。そして、その「宣言」の提案が北本中学校区 3 校（西小、南小、北本中）から他の小・中学校に対して示されたのですが、その中のスローガンに表題の「Yes デー」があったのです。

従来から本校を含んだこの 3 校では「No テレビ・No ゲーム・No スマホデー」の名称で、学習、家族との団らん、睡眠の時間を確保するために、テレビ、ゲーム、スマホの誘惑に負けることなく、これらを使わない日として、概ね月に 1 日設定し、取り組んできました。それを今回は、今までの取組を発展させて、どちらかという後向きになりがちな言葉である「No」を使うのではなく、普段できないことを自分たちからやっということうことで「No」を前向きな言葉である「Yes」に置き換えて、それを市内全校で取り組んでみましょうということを提案したのです。しかもこの発想は、教員の手助けを借りずに児童生徒が自分たちだけで考え、そして議会当日も言葉だけではなく、ポスターや図で分かりやすく示して、他校の代表児童生徒たちに高い説得力をもって伝えていたという点にとっても感動をしました。



このポスターで提案しました

話は変わりますが、このことについて少し前、書店にたくさん並んでいた『伝え方が 9 割』という本を思い出しました。本書はコピーライター、作詞家として活躍する佐々木圭一さんの著書で、自分たちの提案を相手の人に「No」ではなく「Yes」と言ってもらえるようにするためにはどのように伝えたらよいのかということについて書かれています。そのような中、本書が 3 校の取組とは直接、関係はないものの、書かれている内容で次の部分が共通するということに気づきました。それは、「自分の考えをストレートに言葉にするのではなく、いったん相手の立場や好みを考えて、相手に分かりやすい形に翻訳して伝える」ということです。つまり、相手に何かを伝えるときや訴えるときには、「自分の都合」だけではなく、「相手の思いや考え」を慮って（村度して）働きかけることが大切なのですね。

この 2 学期は 9 月 29 日(土)に行われる「運動会」に始まり、様々な行事等が計画されています。それぞれの行事等において、子供一人一人が活躍する場面はたくさんあることでしょう。そうした場面に表れる子供の頑張りの内側には、そこに向かうまでのその子供の思いや願いがあるものです。私たち教職員はその内側に見え隠れする思いや願いをしっかりと酌み取って、子供一人一人が前向きに頑張れるように、そして最高に輝けるように支えてまいります。